



オーナーズ マニュアル

LF12W4 / LF18W3

Joyride
125i 200i 



1. 目次	1
2. 各部の名称.....	3
3. お乗りになる前に	4
4. 安全運転	4
5. 運転.....	5
6. 純正部品の使用.....	5
7. 各部の使用方法.....	6
多機能ディスプレイメーター	6
イグニッションスイッチの操作	8
ボタンの操作	8
ヘルメットホルダー	10
シートロック	10
荷物入れ.....	10
燃料タンクキャップ	11
ブレーキ.....	11
8. エンジン始動時の重点事項と注意	13
9. 最適な発進方法	14
スロットルの操作.....	14
駐車方法	14
10. 乗車前点検とメンテナンス.....	15
日常点検	15
エンジンオイルの点検と交換	15
燃料点検	16
トランスミッションオイルの点検と交換.....	16
ブレーキの遊び点検と調整	16
ディスクブレーキの点検 (型式による)	17
スロットルの遊びと調整	18
バッテリーの点検とメンテナンス.....	19
タイヤの点検	20
フロントショックアブソーバーの点検.....	20
ヒューズの点検と交換	21
ターンシグナルとホーンの点検	21



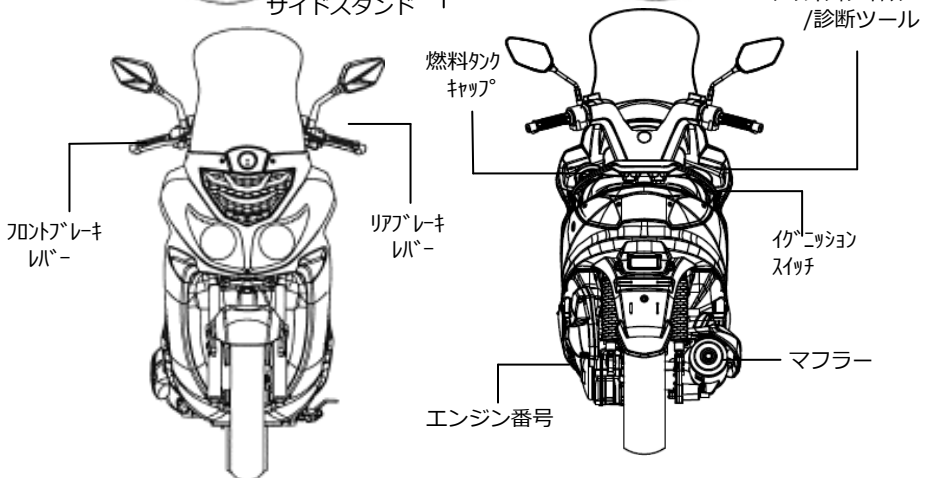
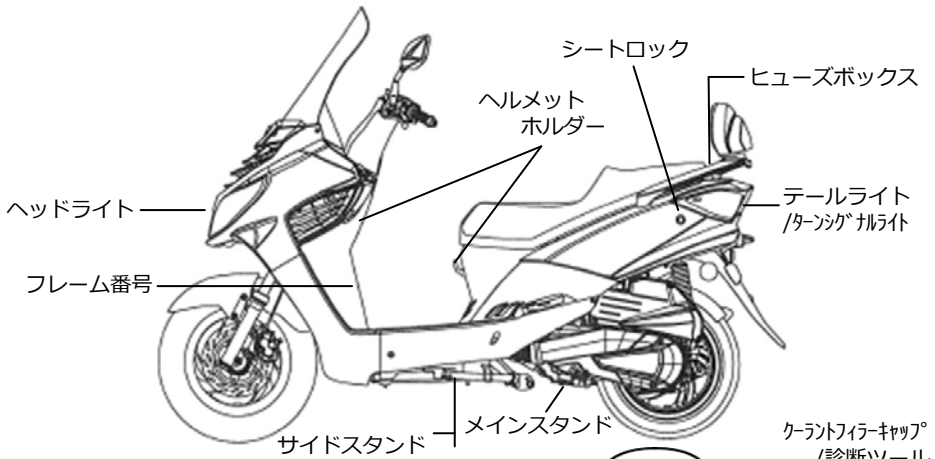
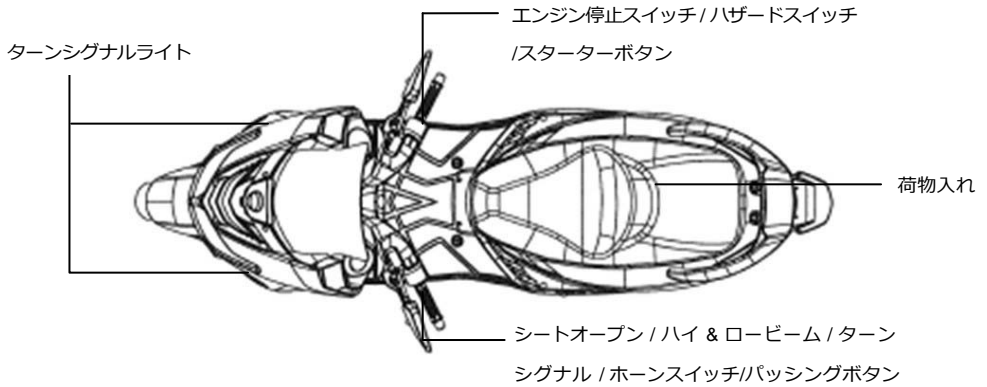
1.目次

ヘッドライトとリアライトの点検	22
ブレーキランプの点検	22
燃料漏れ点検	22
車両各部の潤滑点検	22
スパークプラグの点検	22
冷却装置の点検	22
クーラント（冷却水）の補充	23
外気温ごとの不凍液濃度参照表	23
エアクリナー点検	24
11. 異常時やトラブル発生時	25
エンジンが始動しないときの診断	25
12. E.C.U. 回路接続システム	26
13. 燃料について	26
14. トランスミッションオイル	26
15. スクーターに乗る際の注意	26
16. 定期メンテナンススケジュール	27
17. 仕様諸元	28
18. 追記	29
19. 補償約款	30





2.各部の名称



3.お乗りになる前に

このマニュアルは、安全運転を含むスクーターの正しい使用方法について、基本的な点検の仕方などを説明しています。

より快適で安全な運転のために、この注意書きをよく読んでください。

より詳しくは、SYM正規販売店にお問い合わせいただき作業手順書にて下記の項目をご確認ください。

- スクーターの正しい使用方法
- 納車前検査とメンテナンス

日頃よりお引き立ていただきまして、まことにありがとうございます。

スクーターのパフォーマンスを最大限に引き出すために、定期点検やメンテナンスは必ず行ってください。

新車ご購入後300km走行されましたら、ご購入の販売店にお持ちいただき初回点検を受けてください。その後は、1000km走行するごとに定期的に点検を受けることをお勧めします。

マニュアルやカタログに記載されている仕様や構造は、現行の車両と写真や図などが変更されたり、異なる場合がございます。

4.安全運転

オートバイに乗るときは、窮屈でない運転に適した服装を心がけ、交通の流れをよく把握して、焦らず注意しながら落ち着いて運転することが重要です。

オートバイを購入後、最初のうちはみな、概ね気をつけながら乗りますが、慣れてくると油断して事故を起こす傾向にあります。

⚠ 覚え書き:

- スクーターに乗るときは、安全なヘルメットを被りしっかりと顎ひもをしめましょう。
- 袖口の広いまたは緩い服は、走行中風をはらんでバタつき、ハンドルに引っ掛かったりして安全運転に影響を及ぼす可能性があります。
- 袖口の締まっている服装を心がけましょう。
- 走行中は絶対に片手運転はしないようにし、しっかりと両手でハンドルを握って運転しましょう。
- 制限速度を守りましょう。
- 運転に適した、ヒールの高すぎない靴を履きましょう。
- **予定表に従って、定期メンテナンスと点検をきちんと受けましょう。**

⚠ 警告!!

- 後ろに人を乗せる際は、マフラーで火傷などしないように、両脚をきちんとステップに乗せるようにしましょう。
- 走行後のマフラーは非常に熱くなっています。点検やメンテナンスをする際には十分に注意してください。
- 走行後のマフラーは非常に熱くなっています。他の人がマフラーで火傷をしないように、スクーターを駐車させる際は場所に気をつけましょう。

⚠ 注意:

- スクーターの改造は、その構造やパフォーマンスに大きく影響し、エンジンの性能を低下させて騒音の原因になったり、車両の寿命を短くする原因になります。
- 車両の元々のデザインや、仕様に適合しない改造は違法行為にあたります。
- 改造車両は、保証の対象にはなりませんので改造はしないでください。



5. 運転

とっさの出来事に素早く対処できるように、腕や手、腰に力を入れすぎず、常に余裕を持った姿勢で運転するようにしましょう。

ライダーの姿勢は、安全運転に大きく影響してきます。いつも身体の重心はシートの中央に来るようにしましょう。もし身体の重心がシートの後ろの方にかかる、フロントへの荷重が不足してハンドルの振れを招きとても危険です。

コーナーでは、身体を内側に傾けると曲がり易くなります。そうしないと、コーナーリングが安定しません。スクーターは、凸凹の、整備されていない未舗装路では非常にコントロールが難しくなります。路面状況を出るだけ早く把握し速度を落として、ハンドルを取られないようにしっかりと握って運転しましょう。

アドバイス：ハンドル操作の邪魔になり、安全運転の妨げになりますので、足元には荷物を置かないようにしましょう。



注意:

積載があるときと無いときでは、ハンドルの感覚が若干変わってきます。過積載はハンドルの振れを引き起こし、安全運転に影響を及ぼします。過積載は行わないでください。



注意:

- 火災を起こす可能性がありますので、ポロ布のような可燃物をボディのサイドカバーとエンジンの中に入れてたりしないでください。
- 車体への損傷を防ぐため、荷物入れでない所に荷物を入れたりしないでください。

助言

スクーターの性能を最良の状態でお乗りいただくために：
慣らし運転の最初のヶ月または初回走行距離が1000kmくらいまでは、エンジンやその他の機器のために、急にアクセルを開けることは避け、60km以下のスピードで走行するようにしましょう。

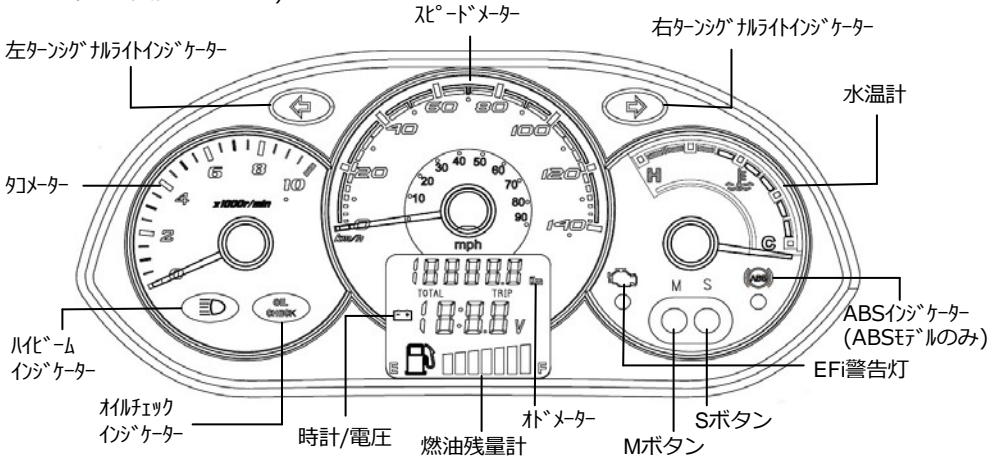
6. 純正部品の使用

スクーターを最良の状態でお乗りいただくために、各部パーツの品質、素材、精密機器部品などには必ず適合するものを使用してください。“**純正部品**”はスクーターのオリジナル部品と同じ品質で作られています。品質検査に合格したもの以外は市場に出回らないよう厳しく管理されています。“**SYM 純正部品**”は、“**SYM 正規販売店**”にてご購入・交換をしてください。純正部品でない安価なものや類似品を使用されますと、スクーターの性能を下げる恐れがあり、またそれらに関して起こった不具合には一切保証は適用されませんのでご注意ください。

- スクーターを常に最良の状態に保ち長くお乗りいただくために、必ずSYM純正部品をご使用ください。

7.各部の使用法

(以下は、SYM4ストローク水冷スクーターの基本的な操作ですが、それぞれの型式によって異なる場合がありますので、巻末をご参照ください。)



⚠ 注意:

電子計器の稼働状態に、異常や損傷があってはけません。
表面を傷つける恐れがありますので、機器パネルやヘッドライト等をガソリンなどの有機溶剤で拭いたりしないでください。

・スピードメーター:

速度をキロメートルとマイルで表します。(外側の円: Km/h, 内側の円: MPH)

・オドメーター:

オドメーターは、スクーターの総走行距離を示します。

・ハイビームインジケータ(青):

ヘッドライトをハイビームにすると、このインジケータが点灯されます。

・ターンシグナルインジケータ(緑):

ターンシグナルスイッチを入れると、左または右のインジケータが点滅します。

・燃油残量表示(計):

メインスイッチがオフのときは、燃油ゲージは表示されません。

燃油残量計は7段階に分かれて表示され、タンク内の燃油残量を表します。メインスイッチをオンにすると燃油残量計が表示され、順に別の表示に切り替わります。燃油残量が減っていくごとに、7段階表示(LCDバー)は消えていきます。最後のバー&E& になりましたら、速やかに給油を行ってください。最後のバーはリザーブを意味します。ガス欠にならないようにしましょう。

電圧表示:

メインスイッチをオンにすると、電圧機能を表すLCDが10秒間表示され、それから時刻モードに切り替わります。



7.各部の使用法

・ABSインジケータライト:(ABS機能付きの型式のみ)

ABS(アンチロックブレーキシステム)インジケータライトは、イグニッションスイッチをオンにすると点灯され、車両が走り出すとすぐに消灯されます。ABSが正常に機能していれば、インジケータは消灯したままですが、もし異常があると点灯した状態になります。このような場合は、ABS機能に異常があることを意味していますが、通常のブレーキシステムは正常に動作します。

・水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

メインスイッチをオンにすると、針は(H)より下を示し、正常であれば走行中も(H)より上を示すことはありません。

もし針が(H)より上を示していたら、冷却水レベルを確認し、ラジエーターファンが正常に作動しているかどうか確認しましょう。異常が見受けられたりエンジンがオーバーヒートを起こしているときは、直ちに走行を中止してください。



注意:

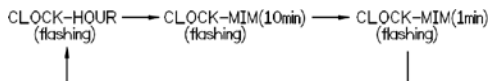
高温下で長時間エンジンを回転させ続けると、エンジンはオーバーヒートを起こしインジケータの針は(H)より上を示します。このような場合は、エンジンを止めることでしか冷却する方法はありません。

□ 各機能の設定方法

速度計の下部に、2つのボタンがあります：

1. “S” ボタン：


- 通常モードで“S”ボタンを短く押すと、表示は“トータル”と“トリップ”で切り替わります。
- “トリップ”表示モードで“S”ボタンを2秒間押すと、トリップメーターはリセットされます。
- “トータル”モードで車両が静置されているとき、“S”ボタンを2秒以上押すと時刻合わせモードになります。“S”ボタンを短く押すごとに「時」を進めることができます。“S”ボタンを2秒間押すと、「分」の10の位の設定ができるようになり、一回押すごとに数字を進めます。再び“S”ボタンを2秒間押すと、同様に1の位を設定することができるようになります。最後に“S”ボタンを2秒以上押して、時刻合わせモードを終了します。



2. “M”ボタン：

- オイル点検警告灯は走行距離1000kmごとに点灯し、エンジンオイルの点検(交換)をお知らせします。オイル点検警告灯を消灯させるには、“M”ボタンを2秒以上押すと消灯されます。
- メインスイッチをオンにして“M”ボタンを短く一回押すと、時計から電圧ゲージに変わります。

・EFi 警告灯

メインスイッチをオンにすると“”の警告灯が点灯し、エンジンが回転を始めると消灯します。これらは、EFiシステムが正常に作動していることを示します。もし警告灯が点灯しなかったり、また点灯したままの状態になるときは、EFiシステムに異常があることを示します。そのような場合は、SYM正規販売店にて自己診断システム、または電気系統の接続点検を行ってください。

・オイル点検警告灯

オイル点検警告灯は、エンジンオイルの点検 / 交換時であることを示します。走行距離が約5000kmになるとエンジンオイル警告灯が点灯し、オイル点検と交換の時期であることを知らせます。“M”(オイルリセット)ボタンを押すとリセットされて警告灯は消灯し、再び0から走行距離を計測し始めます。エンジンオイルレベルは、1000kmごとに点検、5000kmごとの交換をお勧めします。

7.各部の使用法

イグニッションスイッチの操作

イグニッションスイッチ

ON

"スタート"位置

- エンジンが始動される位置
- キーは引き抜くことができません

OFF

"ストップ"位置

- エンジンは停止され、スタートすることはできません
- キーは引き抜くことができます

LOCK

"ハンドルロック"位置

- ハンドルを左いっぱいになり、キーを押しながら軽く左に回して"ロック"位置にします。
- ハンドルがロックされている位置です。
- キーを引き抜くことができます。
- ハンドルロックを解除するには、キーを"ロック"から"オフ"の位置に回してください。



"燃料タンクキャップオープン"位置

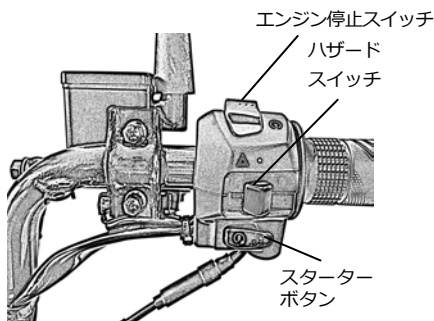
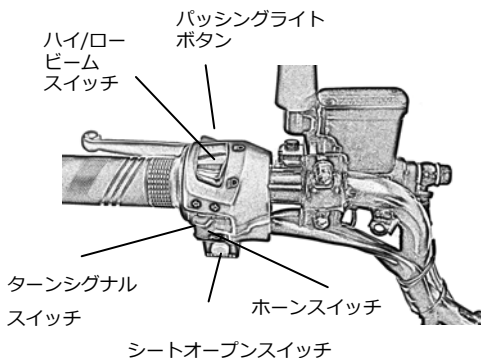
- 開け方：イグニッションスイッチにキーを差し込み、左に回してください。
- 閉め方：燃料タンクキャップを閉じる(押す)と、自動的にキャップはロックされます。



注意:

- 走行中は決してイグニッションキーの操作を行わないでください。イグニッションスイッチをオフ位置やロック位置に回すと、走行中でも電気系統がシャットダウンされ、危険な事態を招く恐れがありますので、イグニッションスイッチをオフにするときは、必ずスクーターを停止させてから行ってください。
- スクーターから離れる際は、ハンドルをロックして必ずキーを抜き取ってから離れるようにしましょう。
- エンジンを停止させたのちも、イグニッションスイッチをオンの位置にしたまま放置すると、バッテリーあがりを引き起こしエンジンがかからなくなる恐れがあります。

各ボタンの使用方法



・エンジン停止スイッチ




緊急時、この位置にスイッチを切り替えるとエンジンが停止されます。




この位置に切り替えるとエンジンがかかるようになります。

□ ハザードスイッチ

-  メインスイッチがオンの状態のときに、ハザードランプが作動するようになっています。このボタンに切り替えられているときは、4つのインジケーター全て(前と後ろの右と左)が一斉に点滅し、同時にディスプレイの方向指示インジケーターも点滅します。この状態のときにウィンカーを押した場合は、方向指示機能が優先されターンシグナルが点滅します。道路を走行中に万が一トラブルや故障が起きた場合は、ハザードを点滅させて車両を速やかに路肩に寄せて、事態が解決するまでハザードはつけたままにしておきましょう。点滅させたハザードランプの解除は、メインスイッチがオンの位置にあるときしかできません。


□ スターターボタン (セルボタン)

-  エンジンを始動させるためのセルボタンです。メインスイッチをオンにしたら、前後どちらかのブレーキレバーを握りながらボタンを押してエンジンを始動させます。

 注意:

- エンジンの故障につながる恐れがありますので、エンジンが始動してからはボタンを押し続けないようにしてください。
- エンジンの始動は、前後ブレーキレバー (ペダル) をかけながらでないと始動できないように安全設計になっています。
- エンジンを始動させている最中に、ヘッドライトやターンシグナルライトなどの電照灯系統の操作を行わないでください。

・自動ライティングコネクション


メインスイッチをオン  の状態にすると、同時にLED-DAYライトやロービームヘッドライト、リアポジションライトやナンバープレートライトが自動的に通電し点灯します。それぞれ、個々に消灯することはできません。


・パッシングライトボタン

パッシングライトボタン **PASS** を押すと、ボタンを押している間のみヘッドライトがハイビームになり、対向車に合図を送ることができます。


・ハイ/ロービームスイッチ

ヘッドライトの、ハイビームとロービームの切り替えスイッチです。


 ハイビーム

 ロービーム (普段、市中を走行するときはロービームにしてください)


 注意:

- 自動ライティングコネクションは、バッテリーによって給電されています。エンジンが停止している状態で長時間メインスイッチをオ  にしたまま放置すると、バッテリーあがりを引き起こしますのでご注意ください。

・シートオープンボタン

 イグニッションスイッチをオンにしてボタンを押すと、シートロックが解除されます。解除後、ボタンは自動で元の位置に戻ります。

・ホーンスイッチ

 イグニッションスイッチがオンのとき、このボタンを押すとホーンが鳴ります。

 注意:

むやみに必要のない警笛を鳴らすのはやめましょう。

7.各部の使用法

・ターンシグナルスイッチ

右折・左折、または車線変更の際にターンシグナルライトを点滅させます。

イグニッションスイッチがオンのとき、ターンシグナルスイッチを左または右にスライドさせると、ライトが点滅します。

ボタンを元の位置に戻すと、点滅は消えます。



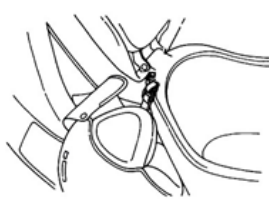
右ターンシグナルの点滅は右折



左ターンシグナルの点滅は左折

ヘルメットホルダー

・ヘルメットの顎ひものDリングを、ホルダーのフックにかけることができます。



注意:

- ・このホルダーにヘルメットをかけたまま走行すると、スクーターのボディを傷つけたり、そのヘルメット事態を損傷する恐れがありますのでやめましょう。

シートロック

・解除:

キーを差し込み、左に回して解除します。

・解除:

イグニッションスイッチがオンのときに、“シートオープン”ボタンを押して解除します。

・ロック:

シートを下に押し下げると、自動的にロックされます。

シートをロックしたら、軽くシートを引き上げてみてロックされているか確認してください。



注意:

- ・シート下の荷物入れにキーを入れないでください。シートは押し下げると自動的にロックしてしまいますので、キーのとじ込みを起こす可能性があります。
- ・シートをロックしたら、忘れずにキーを抜き取りましょう。

荷物入れ

・荷物入れはシートの下にあります。

・最大積載量: 10kg.

・貴重品は入れないでください。

・荷物入れのフタ（シート）がきちんと閉まっているか、必ず確認しましょう。

・洗車の前に、濡れると困るものは取り出しておきましょう。

・エンジンの熱で内部が熱くなりますので、生もの（果物含む）や溶けるもの等はいれしないでください。

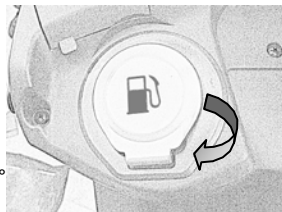


注意:

- ・シートをロックする前に、必ずキーが庫内に残されていないか確認してください。

燃料タンクキャップ

1. キーをイグニッションスイッチに差し込んで左に回すと、キャップは自動的に開きます。
2. 給油の際は、上限ラインを越えないようにしてください。
3. 燃料タンクキャップを押して閉めると、自動的にロックされます。


注意:

- 給油の際はメインスタンドで車両をしっかり地面に立て、必ずエンジンを停止させてから火気の及ばない安全な場所で行ってください。
- 給油は上限ラインを越えないようにしてください。燃料が溢れ出すと、ボディの塗装にダメージを与えるだけでなく、最悪の場合火災が発生しスクーターが炎上する恐れがあります。
- フタ（キャップ）がしっかり閉まっていることを確認しましょう。

USB出力ポート

USBポートはフロントパネルにあります。この出力ポートは、エンジンがかかっているときに低電力機器の充電をすることができます。


注記:

- エンジンが停止しているときは、USB出力ポートを使用しないでください。
- ヒューズの焼き付きを防ぐために、10ワット以上の機器の充電はしないでください。
- 水の侵入を防ぐために、スクーターを離れるときや走行後は、機器をポートから取り外してフタをしっかり閉めてください。

ブレーキ

右ブレーキレバーを引くと、フロントブレーキがかかります。

CBSモデル：左ブレーキレバーを引くと、フロント・リアの両方のブレーキがかかります。

ABSモデル：左ブレーキレバーを引くと、リアブレーキがかかります。

- 不必要な急ブレーキは避けましょう。
- ブレーキをかけるときは、できるだけ前後同時にかけるようにしましょう。
- ブレーキを長く継続してかけ続けると、オーバーヒート（焼き付き）を起こし、ブレーキの利が悪くなりますので気を付けましょう。
- 滑って転倒する恐れがありますので、雨天時の滑りやすい路面では、速度を落とし早めのブレーキを心がけ、絶対に急ブレーキは避けるようにしてください。
- フロントブレーキだけをかけると、一方にだけ制動がかかりすぎて転倒のリスクが上がりますので気を付けましょう。
- ABSが装備されている車両でも、カーブを曲がっている最中はタイヤが滑る可能性が上がります。カーブを曲がる時は、事前に優しく前後ブレーキをかけて速度を落としてから、安全に侵入するようにしましょう。

7.各部の使用法

8.エンジン始動時の重点事項と注意

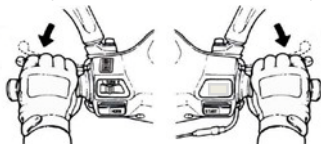


ABSモデル

CBSモデル

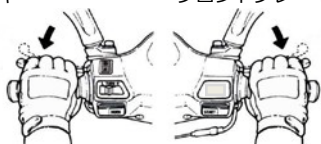
リアブレーキ

フロントブレーキ



フロント/リア
ブレーキ

フロントブレーキ



《エンジンブレーキ》

スロットルを戻すとエンジンブレーキがかかります。


長い坂道を下るときは、必要に応じてエンジンブレーキも併用してください。



注意:

- エンジンをかける前に、エンジンオイルや燃料の量は十分か確認しましょう。
- スクーターが急発進しないように、エンジンをかけるときはメインスタンドを立て、リアブレーキをしっかりとかけながら始動させましょう。

8. エンジン始動時の重点事項と注意

メインキーをオンの位置に回し、エンジン停止スイッチが「」の位置になっているか確認します。

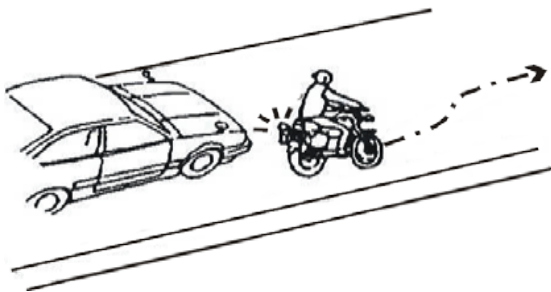
1. フロント、またはリアブレーキをしっかりとかけます。
2. アクセルは開けず、スターターボタンを押してエンジンをかけます。
3. サイドスタンドが上がっていないと、点火（イグニッション）回路遮断システムが有効になりません。



[安全のために：発進する前は、リアブレーキをかけておくことをお勧めします。]

⚠ 注意:

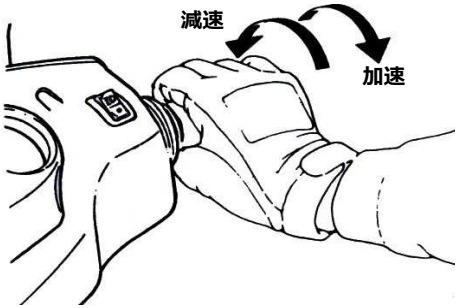
- スターターモーター（セルモーター）を3～5秒間可動させてもエンジンがかからない場合は、2～3秒待ってから再び操作してください。
- スターターモーターが損傷するのを避けるため、スターターボタンは15秒以上押し続けしないでください。
- もし15秒以上スターターボタンを押してもエンジンが始動しない場合は、最低でも10秒以上おいてから再び操作するようにしてください。
- スクーターを長期間動かさない（エンジンを始動させない）でいたり、タンク内の燃料が完全に無くなった場合には、エンジンがかかりにくくなります。このようなときは、スターターボタンを何度か試す必要があり、また同時に少しだけスロットルを開けて始動を助けてやるとかかり易くなる場合があります。
- エンジンが冷えているとき（外気温が低いなど）は、数分の暖機運転が必要になる場合があります。
- 排気には、有害なガス（CO）が含まれています。エンジンを始動させるときは、換気の良い場所で行いましょう。



- 動き出す（走り出す）ときは、あらかじめ必ずターンシグナルライトを点滅させ、他のドライバーにわかるように合図します。車やバイクが来ないことをよく確認したら速やかに走り出し、その後ターンシグナルを消灯します。

9. 最適な発進方法

スロットルの操作



加速：速度を上げる。

坂道などを上る際は、ゆっくりスロットルをあけて、エンジンを加速して走行してください。

減速：速度を落とす。

駐車方法

・パーキングロットに近づいたら：

1. 早めにターンシグナルライトを点滅させ、前方、後方、左右の安全を確認して速やかに内側の（パーキングロットのある側の）車線に変更します。
2. スロットルを戻し、早めにブレーキをかけて減速します（ブレーキランプが点灯し、後方のドライバーに知らせることができます）。

・停止させたら：

3. ターンシグナルスイッチをもとに戻し、イグニッションキーをオフの位置にしてエンジンを停止します。
4. エンジンを停止させたらスクーターの左側から下車します。駐車は、交通の妨げにならない平坦な場所を選び、必ずメインパーキングスタンドを立てるようにしましょう。
5. 左手でハンドルを抑え、サドル部分の前部、または左下部のパーキングハンドルを右手で持ちます。
6. 右足でメインパーキングスタンドを踏み下げて立て、車両をスタンドの上に安定させます。

忘れずに：スクーターの盗難を防ぐため、駐車後はハンドルをロックし必ずキーを抜き取ってください。



注意：

- 交通の妨げにならない安全な場所に駐車してください。

(下記のコンポーネント配置図をご参照ください)

日常点検

点検項目		注意点
エンジンオイル		量は十分か?
燃料		量は十分か? オクタン価は92以上か?
ブレーキ	フロント	かけた時の状態はどうか? (レバーの遊び: 20~30mm)
	リア	かけた時の状態はどうか? (レバーの遊び: 20~30mm)
タイヤ	フロント	空気圧は正常か? (標準値: 1.8kgf/cm ²)
	リア	空気圧は正常か? (標準値: 2.5kgf/cm ²)
ハンドル		ハンドルに異常な振動や変形(カーブでの違和感)はないか?
速度計、ライト、ミラー		正常に機能しているか? ライトは点灯するか? ミラーの視認性に問題はないか?
各部の締結		スクリューやナットは緩んでいないか?
異常箇所		過去の異常箇所に問題はないか?



注意:

- 日常点検の際に見つかった異常は、放置せず、スクーターを使用する前に修理してください。必要に応じて、SYM正規販売店にて修理することをお勧めします。

エンジンオイルの点検と交換

点検:

- 平坦な場所にメインスタンドを立て、車両を安定させてください。エンジン停止後、3~5分おいてからディップスティックを抜き取ります。付着しているオイルをディップスティックからよく拭き取り、再びガイドチューブに差し込みます(この時、回転させないこと)。
- ディップスティックを抜き取り、オイルラインが上限と下限の間にあるかどうか確認します。

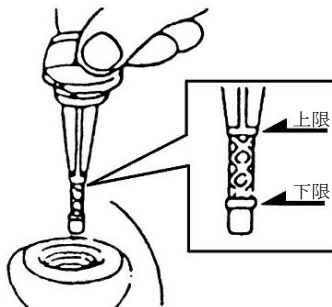
オイルラインが下限を下回っていたら、上限を越えないようオイルを補充します(シリンダー、クランクケース…等、オイル漏れがないか確認)

オイル交換:

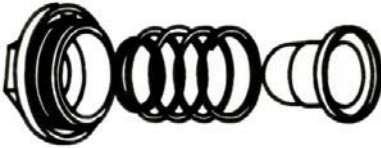
- 初回走行距離が1,000km越えたら交換しましょう。その後は5,000km毎に一回交換します。オイルフィルターも初回走行距離1,000km後に交換します。その後は毎10,000kmに一回交換してください。
- スクーターの性能を最大限に活かすために、点検は欠かせません。エンジンオイル量は1,000km毎に確認し、足りない場合は上限まで補充しましょう。
- エンジンオイル: API SH, SAE 10w-30/40 またはそれ以上。それ以外のものを使用したことによる損傷は保証されません。

※推奨オイル: MOTUL SCOOTERPOWER

- オイル容量: 1.0L(日常点検時は0.8L)
- オイルフィルター交換時: 0.8L



10.乗車前点検とメンテナンス



【オイルフィルター清掃】

フィルターナットの組み立て部分を開けて、部品を取り外します。ガソリンやエアークンプレッサーガン等で、異物を取り除きます。



警告:

- ・スクーターを平坦でない場所に停めたり、エンジン停止直後などは、正しいオイルレベルを計ることができません。
- ・エンジン停止直後は、エンジンやマフラーが非常に熱くなっています。火傷には十分注意してください。

燃料点検

- ・メインキーをオンの位置にして、燃油残量計の針が十分な量を示しているか確認します。
- ・このスクーターのエンジンは、90オクタン価以上の無鉛ガソリンを使用するように設計されています。
- ・メインスタンドがしっかり地面に立てられていることを確認しエンジンを停止してから、火気から離れた場所で給油を行ってください。
- ・上限ライン以上に、給油しないようにしてください。
- ・給油後は、タンクのキャップがしっかり閉まっていることを確認してください。
- ・ガソリンに10%以上のエタノールを混ぜないでください。

トランスミッションオイルの点検と交換

点検:

- ・メインスタンドを立て、スクーターを地面に安定させます。エンジンを停止させてから3~5分待ち、トランスミッションオイル注入ボルトを取り除きます。計量容器をドレンボルトの下に置き、ドレンボルトを外します。オイルを計量容器に排出して容量が減っていないかどうかを確認します(分解時: 110 cc / 交換時: 90~100 cc)。

オイル交換:

- ・エンジンを停止して、メインスタンドでスクーターをしっかりと地面に安定させます。点検時と同様の手順で、注入ボルトとドレンボルトを外してオイルを排出します。
- ・ドレンボルトを戻してしっかりと締め、新しいトランスミッションオイルを注入 (90~100 cc.)します。注入ボルトももとに戻してしっかりと締めます(どのボルトもしっかりと締め、漏れなどがなくよく確認しましょう)。

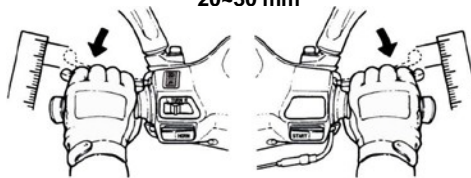
※推奨ミッションオイル: MOTUL MOTYLGEAR **80W-140**

ブレーキの遊びの点検と調整

点検: (ブレーキレバーの遊び点検をする際は、必ずエンジンを停止して行ってください)

- ・フロントとリアのブレーキレバーの遊び
フロントとリアのブレーキレバーの遊びは、概ね20~30mmです。もしレバーを握ったときの感触にスポンジのような違和感がある場合は異常を示しています。

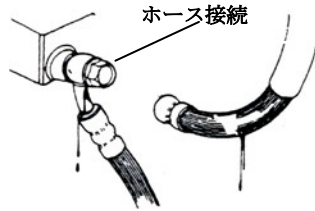
20~30 mm



ディスクブレーキ点検(ディスクブレーキ装備モデルのみ)

(漏れ、損傷、ブレーキホースの緩み)

- ・ブレーキホースからの漏れがないか目視で確認、損傷や、接続の緩みがないか、あればレンチや同等の工具で締め直します。走行中のハンドルへの振動や、他のパーツからの干渉などがブレーキホースの損傷につながります。もし異常や損傷が見つかったときは、速やかにお近くのSYM正規販売店にて修理してください。

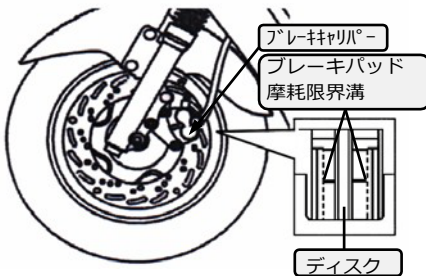


注意:

- 乾いた路面は比較的安全です。ゆっくり走行して、フロントとリアのブレーキをかけてみて、異常がないか確認してください。

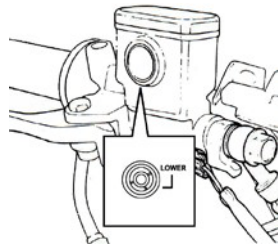
フロントブレーキライニング(シムの消耗品)

- キャリパーの裏側からブレーキを点検します。ブレーキパッドの摩耗限界点がブレーキディスクに達していたら、速やかに新しいものと交換しましょう。



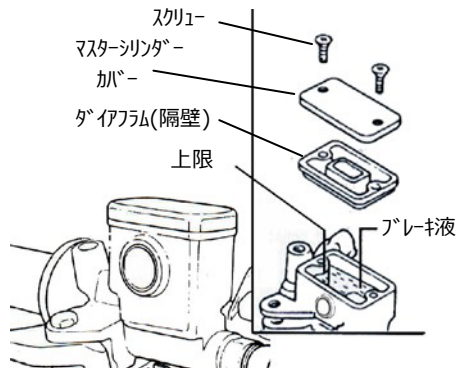
ブレーキオイルリザーバの液量の点検

- スクーターを平坦な場所に静置して、液レベルが下限マークより下がっていないか確認します。推奨ブレーキオイル: MOTUL(DOT3 or DOT 4) BRAKE FLUID



フロントブレーキ液の補充

1. スクリューを緩めてマスターシリンダーカバーを外します。
2. リザーバの周りや内側の、異物や汚れをきれいに拭き取ります。その際、再び中に異物が入らないように気を付けましょう。
3. ダイアフラムプレートとダイアフラムを外します。
4. ブレーキ液を上限まで入れます。
5. ダイアフラムプレートとダイアフラムを取り付け、マスターシリンダーカバーを被せます。
6. ダイアフラムの向きに気を付け、中に異物が混入しないように注意しましょう。マスターシリンダーカバーをしっかりと被せて固定します。



⚠ 注意:

- 化学反応を起こす可能性がありますので、推奨のブレーキ液以外は使用しないでください。
- ブレーキ液補充の際には、上限を越えないようにしてください。溢れたりこぼれた液が、塗装やプラスチック部品にダメージを与える恐れがあります。

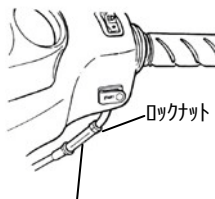
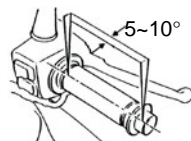
スロットルの遊びと調整

正常なスロットルの遊び範囲は、概ね5~10度です。

- 最初にロックナットを緩めてから、調整ネジで調整します。終了後は、またロックナットをしっかり締めてください。

点検項目:

1. スロットルがスムーズに動くかどうか、スロットルを閉じたり大きく開けたりしてケーブルの動きを確認してください。
2. ハンドルを左右に大きく回してみても、スロットルケーブルが干渉していないか確認します。
3. スロットルがスムーズに動作するように、ケーブルが他のケーブルから影響を受けていないか確認します。



調整ネジ

バッテリーの点検とメンテナンス

- ・このスクーターには、メンテナンスフリータイプのバッテリーが搭載されています。点検や電解液の補充は必要ありません。もし何か異常が発見されたら、お近くのSYM正規販売店にて点検してください。

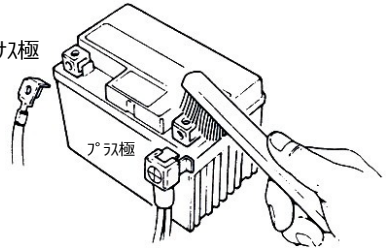
バッテリー端子の清掃

バッテリー端子を外して、腐食物等の付着を取り除きます。

バッテリーの取り外し方は以下です：

イグニッションスイッチをオフにします。バッテリーキャビネットを開け、マイナス極のネジを最初に外してから、マイナス極のケーブルを外します。同様にしてプラス極のネジを外し、プラス極からケーブルを外します。

マイナス極



注意：

- ・電極が白い粉状の物質で浸食されていたら、お湯で掃除します。
- ・もし端子の浸食が著しい場合は、ケーブルを外してスチールブラシやサンドペーパーできれいにしてください。
- ・清掃の後には、端子に薄くグリースを縫って保護してから、バッテリーケーブルをつないでください。
- ・バッテリーを取り付ける際は、取り外すの逆の手順で行ってください。

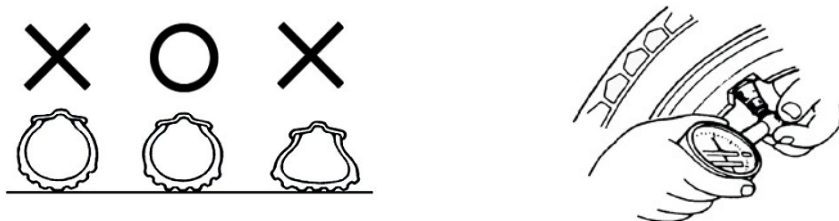
注意：

- ・このバッテリーは密閉タイプのバッテリーです。絶対にフタ(キャップ)を開けないでください。
- ・放電を防ぐために、長期間オートバイに乗らないときは、バッテリーを外しておきましょう。フル充電させたあとに、換気の良い薄暗い場所に保管します。もしバッテリーをスクーターに乗せたままにしておくのであれば、マイナスケーブルを外しておいてください。
- ・バッテリー交換が必要なときは、同じ密閉タイプ(メンテナンスフリー)のバッテリーと交換してください。

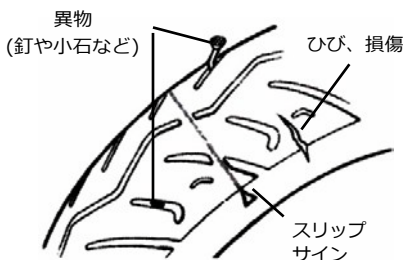
10.乗車前点検とメンテナンス

タイヤの点検

- ・タイヤの点検や空気を入れる際は、必ずエンジンを停止して行ってください。
- ・タイヤ設置面のカーブの形が正常でない場合は、空気圧計(ゲージ)で測定し適切な空気圧に調整してください。
- ・空気圧計(ゲージ)で測定するときは、タイヤが冷えているときに行ってください。



このタイヤの空気圧標準値を参照してください



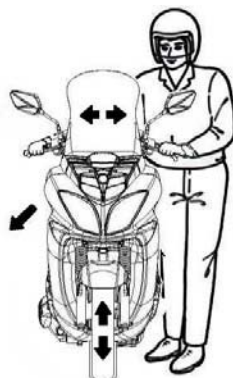
- ・正面からと側面から目視して、ひびや損傷がないか確認します。
- ・釘や小石などが刺さったり、溝に挟まったりしていないか目視で確認します。
- ・スリップサイン(摩耗の状態)をよく見て、溝の深さは適正か確認しましょう。
- ・スリップサインが出ていたら、速やかにタイヤを交換しましょう。

⚠ 注意:

- ・空気圧の異常や摩耗、ひびなどは、ハンドル操作のコントロールを失ったり、タイヤがパンクするもっとも大きな原因につながりますので注意しましょう。

フロントショックアブソーバーの点検

- ・この点検は、エンジンを停止してイグニッションキーを抜いて行ってください。
- ・まず目視で損傷等がないか確認します。
- ・ハンドルを上下に動かし、歪み(曲がるなど)による雑音はないか確認します。
- ・ショックアブソーバーのボルトやナットに緩みはないか、レンチなどで確かめます。
- ・ハンドルを上下左右、前後に揺ります。抵抗が強すぎたり片側に偏るときは、緩みがあるなど異常を示しています。
- ・ブレーキケーブルで、ハンドルが引っ張られすぎていないか確認します。
- ・もし異常な状態が見つかったら、速やかにお近くのSYM正規販売店にて点検、修理を受けてください。

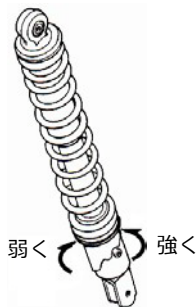


リアサスペンションの調整

工場出荷の状態では段階は3に設定されていますが、好みに合わせて調整することができます。アジャスターリングを回して、硬さ(強さ)を調節します。

注意:

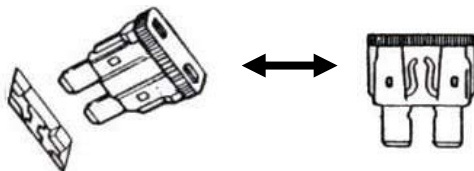
- 反時計回り回転させると硬く(強く)、時計回りに回転させると柔らかく(弱く)なります。
- 両方のサスペンションが均等になるように調整しましょう。



ヒューズの点検と交換

メインスイッチをオフにして、ヒューズが飛んでいないか確認します。飛んでしまったヒューズを規格に合った新しいヒューズと交換します。規格外のヒューズは使用しないでください。銅線や他の代用品を代わりに使用することはやめましょう。

- 荷物入れの箱を外すと、ライトの近くにヒューズボックスがあります。
- ヒューズボックスカバーを開け、ヒューズを取り出しましょう。損傷や破損の有無を確認します。
- ヒューズを戻すときは、ワイヤーコネクターにしっかりと接続されているか確認しましょう。接続があまりいと、負荷がかかりすぎてヒューズ損傷(焼き切れ)の原因になります。
- 例えばライトバルブなど、仕様にあった(規格内の)電装品を使用してください。規格外の電装品を使用しますと、ヒューズが飛んだりバッテリーの過放電につながります。
- スクーターを洗車するときには、ヒューズボックスの周りに水がかからないようにしましょう。
- ヒューズが飛んだり、他の異常が見つかった場合は、お近くのSYM正規販売店にて点検を受けましょう。



焼き切れたヒューズ

ターンシグナルライトとホーンの点検

- イグニッションスイッチキーをオンの位置にします。
- ターンシグナルライトのスイッチを入れて、前後、右左のシグナルライトが点滅するか確認します。
- ターンシグナルライトのカバーが、汚れていたりひびが入っていないか、また外れそうになっていないか確認します。
- ホーンボタンを押して、警笛(ホーン)が鳴ることを確認します。

⚠ 注意:

- ターンシグナルライトには、規定の仕様のバルブを使用してください。規定のもの以外を使用すると、正常に機能しない恐れがあります。
- 右左折をするときや車線変更をするときは、必ずターンシグナルを点滅させて後続車や対向車に合図をしましょう。
- そのままにしておくと、後続車を混乱させてしまいます。合図の必要がなくなったら、速やかにボタンを押してターンシグナルを消しましょう。

10.乗車前点検とメンテナンス

フロントとリアのライト点検

- ・エンジンを始動させ、ヘッドライトとリアライト両方が点灯していることを確認します。
- ・ヘッドライトを壁に向け、明るさと角度が適切か確かめます。
- ・ヘッドライトカバーに、汚れやひびはないか、外れそうになっていないか確認します。

ブレーキランプの点検

- ・イグニッションスイッチキーをオンの位置にします。フロントとリアのブレーキレバーを握って、ブレーキランプが点灯するかどうか確認します。
- ・ブレーキランプカバーに、汚れやひびはないか、外れそうになっていないか確認します。

⚠ CAUTION:

- ・システムが損傷したり、バルブが焼き切れたり、バッテリーの過放電が起きる原因になりますので、規格外のバルブは使用しないでください。
- ・負荷がかかり過ぎたり、回路がショートして最悪の場合火災を起こす恐れがあります。改造や、他の電装品を付けたしたりしないでください。

燃料漏れ点検

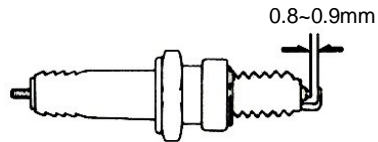
- ・燃料タンク、燃料コックカップ(ストレーナカップ)、燃料ホース、キャブレターからの漏れはないか。

車両各部の潤滑点検

- ・車両の要所(可動部など)の潤滑は十分であるか確認します。
(例えば、メインスタンドやサイドスタンドの可動部分、ブレーキレバーなど)

スパークプラグの点検

- ・スパークプラグケーブルのキャップを外し、付属工具の中のスパークプラグレンチを利用してスパークプラグを外します。
- ・電極が炭素堆積物などで汚れていないか確認します。
- ・スチールワイヤーとガソリンで、電極の炭素堆積物を取り除き、布できれいに拭き取ります。
- ・すきまゲージ(フィーラー)で、電極のギャップを0.8~0.9mmに調整してください。
- ・手でしっかりと締めたのち、さらにレンチで1/2~3/4回転させて締結します。



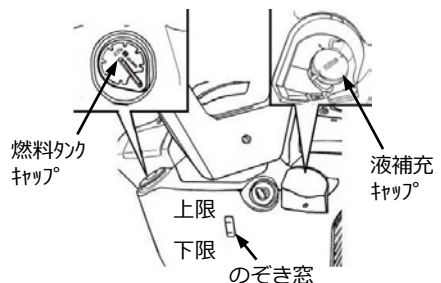
⚠ 注意:

走行後のエンジンは非常に熱くなっています。火傷には十分注意しましょう。
※必ず、スクーターの仕様にあった推奨プラグを使用してください(仕様諸元を参照)

冷却システムの点検

(クーラントレバー点検)

- 1.メインスタンドで車両を平坦な場所に静置します。
 - 2.リザーブタンクののぞき窓から、クーラント液レベルが上限と下限の間にあるか確認します。
 - 3.液レベルが下限に近いときは、クーラント液を上限まで補充してください。
(液漏れがないか確認すること)
- ・ラジエーターやパイプ系統からの液漏れも確認。
 - ・車両から液漏れしていないか、地面の上も確認。



クーラント液の補充

(ラジエーターキャップは常にしっかりと閉めておくこと)

- 1.車両を平坦な場所にまっすぐ立てます。
- 2.バッテリーキャビネットのフタを開けます。
- 3.サージタンク(調圧タンク)のフタを開け、クーラント液を上限マークまで補充してください。

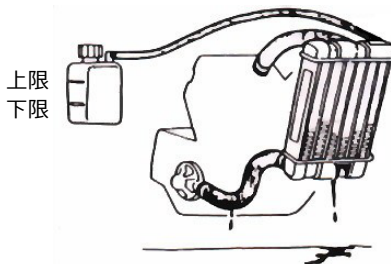
- ・液レベルの下降が頻繁に起こる場合は、冷却システムに何か問題があることを示します。
- ・ラジエーターの錆を防ぐために、推奨されるクーラント液以外は使用しないようにしましょう。

推奨クーラント液: JIS LLCグレード 不凍液

濃度: 50%

ラジエーター液容量: メインラジエーター: 780 cc

サージタンク: 420 cc



注意:

- ・クーラント液を混ぜる際は、軟水を使用してください。
- ・低品質のクーラント液は、ラジエーターの寿命を縮める原因になりますので注意しましょう。
- ・クーラント液は概ね一年に一回は交換してください。



注意:

車両を寒冷地で使用する際の不凍液濃度については、下記の表を参照してください。
(0℃以下)

気温(零下)ごとの不凍液濃度表

1. このスクーターのラジエーター不凍液濃度の仕様はH68です。
2. 気温(零下)ごとの不凍液濃度の%は以下の通りです:

濃度(%)	気温(零下)	特記
20%	-8	この車両は、あらかじめ安全性を考慮し、工場出荷の段階ですでに不凍液50%濃度に調整されています。
30%	-15	
40%	-24	
50%	-36	

3. 仕様に合った不凍液が用意できない場合は、同等の高品質のものを使用してください。
4. 気温が非常に低い環境下(気候)では、ラジエーターのメンテナンス周期は短くなります。

10.乗車前点検とメンテナンス

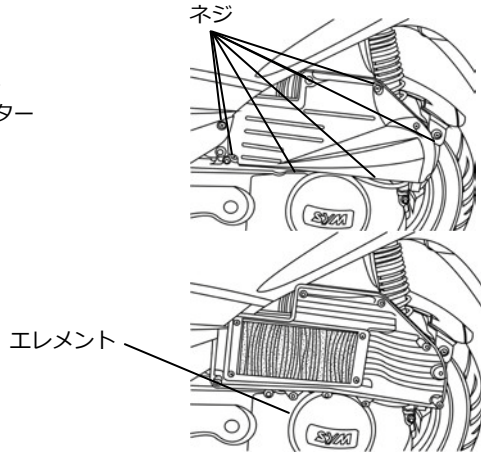
エアクリナー点検

《分解手順》

1. エアクリナーカバーからネジを外します。
2. エアクリナーカバーを取り外し、フィルターエレメントを外してください。
3. エレメントを取り出して掃除します。
(メンテナンススケジュール参照)

《組み立て手順》

□ 分解手順と逆の手順で組み立てます。



注意:

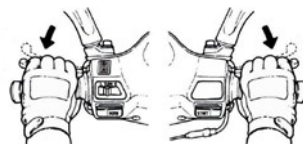
- 誇りの堆積は、エンジンの馬力を落とし燃費を悪化させる大きな原因となります。
- 誇りっぽい道路を走行することが多い場合は、エンジンの寿命を延ばすためにも、より頻繁にエアクリナーエレメントの交換を行ってください。
- エアクリナーの取り付けが不完全だと、埃がシリンダー内に入り込んで劣化を早めたり、エンジン出力の低下を招いてエンジンの寿命を縮める原因になります。
- エアクリナーが水に浸かるとエンジンがかかりにくくなりますので、スクーターを洗車する際はエアクリナーに水がかからないように気をつけましょう。

11.異常時やトラブル発生時

エンジンが始動しないときの診断

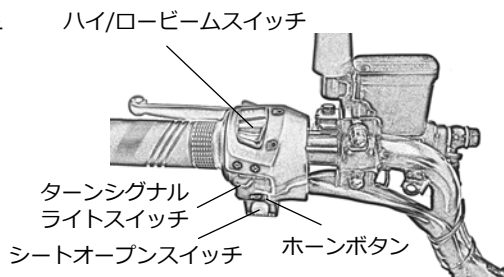
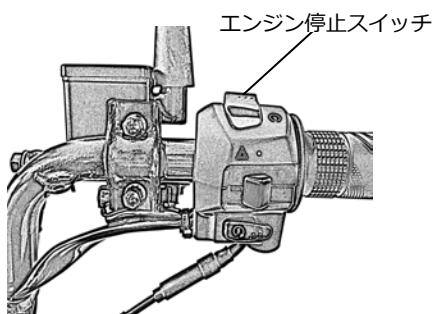


- (1). イグニッションスイッチキーはオンの位置になっていますか？



- (2). 燃料は十分入っていますか？

- (3). スターターボタンを押すときに、前後いずれかのブレーキレバーは握っていますか？



- (4). エンジン停止スイッチが“” (走る)の位置になっていますか？

- (5). イグニッションスイッチキーをオンにして、ホーンボタンを押しても警笛が鳴らない場合はヒューズが飛んでいる可能性があります。

【上記の原因に問題がないのにエンジンが始動しない場合は、速やかにSYM正規販売店にて点検を受けてください】

12. E.C.U. 回路接続システム

- ・このハードウェア機器は、16ビットコンピュータがによって制御されています。エンジンの状態を検出し、回路接続機能によって、燃料噴射や燃料ポンプ、イグニッションコイルへ動力を変換します。

13. 燃料について

- ・このスクーターは、90オクタン価以上の無鉛ガソリンを使用するように設計されています。
- ・標高の高い場所(大気圧の低い)を走行する場合は、気圧の関係でエンジンのパフォーマンスが低下しやすくなります。燃料と空気の混合比を調整して走行してください。

14. トランスミッションオイル

- ・推奨オイル: 純正SYMハイポイドギアオイル(SAE 85W-140)

15. スクーターに乗る際の注意

1. スクーターのメインスタンドを立てシートに座り、前方に押ししてパーキングスタンドをはらいます。



注意:

- 発進する前に(停車中に)スロットルを開けて、むやみにエンジンの回転数を上げないでください。

2. スクーターの左側から乗車し、シートに正しく腰掛けます。車両が倒れないように足をしっかりと地面につけてください。



注意:

- 停車するときは、リアブレーキをかけてください。

3. 発進時は、ゆっくりスロットルをあけて発進してください。



注意:

- 急にスロットルを開けると、スクーターが急発進して非常に危険です。
- 発進する前に、サイドスタンドが上がって(解除)いるか必ず確認しましょう。

【急ブレーキや急旋回はしないでください】

- ・急ブレーキや急旋回は、スリップや転倒の原因になります。
- ・急ブレーキまたは急旋回は、雨天時の濡れた路面では特に、スリップ(横すべり含む)や転倒を起こしやすいので注意しましょう。

【雨の日は特に運転に注意を払いましょう】

- ・雨の日や濡れた路面では、乾いた路面よりもブレーキの制動距離が伸びますので、速度を落とし早めのブレーキを心がけてください。
- ・坂道を下るときは、スロットルを戻し適度なブレーキをかけながらゆっくりと下りましょう。



16. 定期メンテナンススケジュール

点検項目	走行距離 メンテナンス周期	毎	毎	毎	毎
		1,000km	5,000km	10,000km	15,000km
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年
1	エアクリーナーエレメント*	I	C	R	
2	オイルフィルター(メッシュ フィルター)	I	10,000km毎に清掃		
3	エンジンオイル	(1,000kmで初回、5,000kmで2回目、その後5,000km毎に交換)			
4	タイヤ空気圧	I	I		
5	バッテリー	I	I		
6	スパークプラグ	I	I		R
7	スロットルバルブのカーボン清掃	I		I	
8	ハンドルとベアリング	I	I		
9	トランスミッションオイル漏れ点検	I	I		
10	クランクケースオイル漏れ点検	I	I		
11	トランスミッションオイル	(初回は1,000km、その後10,000km毎に交換)			
12	ブレーキオイル	I	30,000km毎に交換		
13	ドライブベルト/ローラー/ドライブプーリー			C	R
14	燃料タンクチューブとフィルター	I	I		
15	スロットルの動作、スロットルケーブル	I	I		
16	ボルトとナット	I	I		
17	カムチェーン	I		I	
18	バルブの遊び	I		I	
19	ショックアブソーバー	I		I	
20	フロント/リア サスペンション	I		I	
21	メイン/サイド スタンド	I/L		I/L	
22	クランクケースブローバイシステム (PCV)	I	C		
23	クーラント(冷却液)	I	I		R
24	冷却ファン、チューブ	I	I		
25	クラッチ、クラッチカバー、ドライブプーリー			C	
26	ブレーキ機構/ブレーキインゲ(パッド) **	I	I		
27	ライト、スイッチ、電気系統	I	I		

記号: I ~ 点検, 清掃, 調整 R ~ 交換

C ~ 清掃 (必要に応じて交換)

L ~ 潤滑

* 埃の多い環境下では、5000km毎にエレメントの交換を行ってください。

コンプレッサーでエアフィルターの埃を取り払うことは絶対しないでください。必要に応じて交換すること。

** 必要な場合は10,000km毎に、ブレーキキャリパーやマスターシリンダーの内部部品を清掃、交換してください。

2年または30,000km毎に、ブレーキオイルを交換してください。

4年または60,000km毎に、ブレーキホースの交換を行ってください。

☆ 走行距離や周期が指定の基準に達したら、上記スケジュールに従ってメンテナンスを行ってください。

不具合や疑問点が生じた場合は、上記スケジュールに関係なくお近くのSYM正規販売店にご連絡ください。

☆ スクーターを最良の状態に保つために、SYM正規販売店にて点検や定期メンテナンスは必ず受けてください。

☆ ハイスピードで走ることが多かったり、長距離、埃の多い環境での走行が多い場合は、より頻繁に点検やメンテナンスを行ってください。



17.使用諸元

17.仕様諸元

項目	モデル仕様	
	LF12W4-EU	LF18W3-EU
全長	2,100mm	
全幅	760 mm	
全高	1,410 mm	
軸距(ホイールベース)	1,440 mm	
車両重量	161 kg	164 kg
エンジン	4-ストローク 4V 電気点火 6バルブリッドルエンジン	
燃料仕様	無鉛ガソリン(オクタン価92以上)	
冷却方式	水冷	
総排気量	124.9 cc	175.3 cc
圧縮比	11.3:1	11.0:1
最高出力	13.9 ps / 9,000 rpm	17.0 ps / 8,250 rpm
最大トルク	1.14 kgf-m / 7,000 rpm	1.60 kgf-m / 6,500 rpm
始動方式	エレクトリカルスターター	
フロントショックアブソーバー	テレスコピックフォーク	
リアショックアブソーバー	ユニットスイング	
クラッチ	遠心クラッチ	
変速方式	CVT	
フロントタイヤ	110/90-13 56P	
リアタイヤ	130/70-12 64L	
リムタイプ	アルミニウム	
タイヤ空気圧	フロント: STD 1.8kgf/cm ² (25psi), リア: STD 2.5kgf/cm ² (36psi)	
フロントブレーキ	ディスク (Ø 240 mm)+CBS	ディスク (Ø 240 mm)+ABS
リアブレーキ	ディスク (Ø 200 mm)+CBS	ディスク (Ø 200 mm)+ABS
フロントライトバルブ (ハイ、ロー)	12V 55W (H11) x2	
ブレーキライトバルブ (テール)	12V 5W / 21W	
ナンバープレートライトバルブ	12V 5W	
ターンシグナルライトバルブ	12V 21W	
スピードメーターライトバルブ	12V 1.7W	
エンジンオイル容量	1.0 L (交換時は0.8 L)	
トランスミッションオイル容量	110 cc. (交換時は100 cc.)	
燃料タンク容量	7.6 L	
ヒューズ	20Ax2, 15Ax2	30Ax2, 20Ax2, 15Ax2
スパークプラグ	CPR8EA-9	
バッテリー	12V 8Ah YTX9-BS/GTX9-BS (密閉式 メンテナンスフリー)	
エアクリーナー	乾式(ペーパータイプ)	
燃料タンクキャップ	オープンロック	
フロントライト	ノーマルタイプ	
リアグラブフレーム	非積載型	

18. 追記

アンチロックブレーキ システム

ABSは、車輛をまっすぐ走らせているとき、激しいブレーキングを行っても、ホイールがロックすることを防ぐよう設計されています。ABSは、自動的にブレーキ力を調節する仕組みです。断続的にグリップ力と制動力を得ることは、ホイールがロックしてしまうことを防ぎ、停止しながら安定したステアリング制御を可能にします。

ブレーキの操作方法は従来のオートバイと同じです。フロント・ブレーキにはブレーキレバーを、リア・ブレーキにはブレーキ・レバーあるいはブレーキ・ペダル（車種によって異なります）を使用します。

ABS は、ホイールがロックしてしまうことを防ぐことで、停止しながら安定性を提供しますが、次のような特性をも兼ね備えていることを、覚えておきましょう。

- ・ ABS は、ぬれた路面などの厳しい道路状況や運転者による誤った判断、またはブレーキの不適切な使用を補償するものではありません。運転者は、ABS を装備していない車両と同じ注意を払う必要があります。
- ・ ABS は制動距離を短くするには設計されていません。水や泥で緩んだ路面や、オフロードのような不整地、あるいは下り坂などでは、ABS を搭載した車両の制動距離は、ABS なしの同等の車両のそれよりも長くなる可能性があります。
- ・ ABS は、正立状態におけるブレーキ時のホイールロックを防ぐことに役立ちますが、コーナリング中のブレーキによって引き起こされるホイールスリップを制御することはできません。角を曲がるときは、前後のブレーキを軽くかけるか、もしくはブレーキをかけないで運転する方が安全です。コーナーに入る前に十分にスピードを落としましょう。
- ・ ABS を制御するコンピュータは、車両の速度とホイールの回転速度とを常時モニタリングしています。非推奨タイヤを使用していると、ホイールの回転速度が設計時と異なる恐れがあり、このためコンピュータが混乱し、制動距離をさらに引き延ばす恐れがあります。

注意:

ABSは、起こりうる全ての危険からライダーを保護するものではなく、またこれがあれば安全運転ができるというわけではありません。ABSシステムの動作方法や、ABSによってできることの可否などを十分に理解した上で活用しましょう。ABSに頼りすぎることなく、天候や路面の状況に十分留意を払い、交通状況をよく見極めて適切な速度で運転することはライダー自身の責任です。



保証約款

保証の発効

SYMの車両保証は、モータリスト合同会社と車両売買契約並びにアフター・サービス契約を締結した販売店（以下「SYM取扱店」）がSYM保証登録フォームへ必要事項を入力、送信後、有効となる。

保証期間

SYMの車両は、顧客が製品を購入しその製品の登録が完了した日から12か月間、本約款の規定に則り保証される。なお、本保証は新車を購入したオーナー（所有者）にのみ適用され、保証期間満了前に転売がおこなわれた場合には、保証の譲渡は認められない。

保証の内容

SYMの車両は、オーナーズマニュアルに記載された取扱要領に則った通常の取り扱いを行われて運用されていること、ならびに指定された定期点検をSYM正規取扱店にて受検していることを条件として、生産上の欠陥、材質等に起因する不具合において、規定に従って修理または交換の実施を保証する。

保証修理の請求

保証修理のための移動、運搬は購入者の責任において、SYM取扱店へ持ち込む必要がある。その際、登録書類、保証書、点検実施の確認のできる書類を持参する必要がある。

保証修理はSYM取扱店の認められている作業場でのみ行うことができ、不具合の確認後直ちに行う必要がある。

保証の否認

保証修理適用の可否については、SYM取扱店にて、購入車両と不具合を実際に診断した上で判断する。

使用者の遵守事項

道路運送車両法では日常点検と定期点検の実施が義務付けられている。定期交換部品、油脂類の交換は指定された頻度で行うこと。

ユーザーマニュアル記載の取扱い方法にしたがって適切に使用すること。

**保証適用外の事項（以下の原因による故障または不具合は保証対象外）**

通常の使用による摩耗、傷、自然劣化、自然退色

購入した製品を、取り扱いに関する指示書（ユーザーマニュアル、メンテナンススケジュールなど）に従わなかった場合
購入した製品がサービスの提供を認可されていない作業場により整備された場合

SYM から使用が許可されていない部品が装備された場合購入した製品をSYM が許可しない方法で改造した場合

不注意または不適切な取扱いや誤用（競技等の目的で使用） 不適切な保管に起因した問題

機能や性能に影響のない感覚的な事象（音、振動、液体のしみなど） 転倒、追突、衝突などの事故に起因する不具合

天災および火災に起因する不具合

煤煙、降灰、酸性雨、オイル、薬品、鳥糞、塩害、飛石に起因する不具合

結露など、自然現象や環境条件に起因する不具合経年変化による劣化とみなされる症状

車両が盗難・放火・悪戯等により被った損害

SYM が指定した規格以外の燃料や油脂を使用したことに起因する不具合

異常を発見していたのにも関わらず放置、継続使用したことに起因、拡大した不具合

負担しない費用

消耗部品及び油脂類等（タイヤ・バッテリー・ブレーキパッド等を含む）

法令及び SYM が指定する点検整備、その他の点検、調整、清掃ならびに定期交換部品

車両を使用できなかったことによる損失（通信費、引き取り納車費用、交通費、宿泊費、休業補償、商業損失）

SYM 純正品以外の部品

アクセサリやコンポーネントを車両に取り付け、接続したことによる動作の変化、純正部品の損傷、電気系の不具合、データ損失

保証期間内に確認された不具合にもかかわらず、保証期間終了後に報告した場合の修理費

その他

保証規定ののっとり取り外された部品はモータリスト合同会社の所有物となる。

SANYANG MOTOR CO.,LTD.

NO.3 Chung Hua Road, Hukou, Hsinchu,Taiwan R.O.C.

T 03-598-1911

F 03-598-1844

E SERVICE@sym.com.tw

W <http://www.sym-global.com/>



SYM